# 市響

## 第413回 交響楽の午後

W.A.モーツァルト／「イドメネオ」のための5つの舞曲 K.367
R.シューマン／交響曲第2番 ハ長調 作品61（大勝秀也編）

指揮：大勝秀也
管弦楽：市川交響楽団

**2020.8.23（日）**

**午後2時開演（1時30分開場）**

**市川市文化会館大ホール**（JR総武線・本八幡駅下車）

**入場無料**【未就学児は入場できません】

お問い合わせ：TEL.047-339-3554市川交響楽団協会（篠田）　市響ホームページ：http://ichikyo.org/　主催：市川交響楽団協会　共催：市川市
協力：（公財）市川市文化振興財団　山崎製パン株式会社　（公社）日本アマチュアオーケストラ連盟　後援：千葉交響楽団協会

## 本日は第413回市響「交響楽の午後」にご来場いただきありがとうございます。

市川交響楽団協会
理事長　時田　雄

本年３月に出された新型コロナウイルス感染防止のためのイベント自粛要請、その後の「緊急事態宣言」による文化施設の閉鎖により、当協会におきましても感染防止を目的として約３ヶ月にわたり練習及び演奏活動を休止し、演奏会開催を待ち望んでいる市川市民の皆様にここ市川市文化会館で生の演奏をお届けすることができない状況が続いておりました。

当協会が行っております、クラッシック音楽の演奏を通じての地域文化振興活動は、1951年に創設されまもなく70周年を迎えようとしております。

この度のコロナ禍により舞台公演活動が真っ先に「不要不急」と判断され、すべての活動が止まってしまった期間は、長らく当協会が築いてきた社会活動の意義を一気に否定され、今後の再開ができないまま組織の解散も余儀なくされることと危惧しておりました。

今般 5月25日に出された「緊急事態解除宣言」に伴い、感染予防について最大限の対策を 前提としつつ徐々にではありますが活動再開の運びとなり、本日はその復活公演となります。

本日、ご来場の皆様には感染防止のご協力をお願いし、また舞台上での出演者、スタッフも感染防止ガイドランを順守しての演奏会となります。下記の注意事項をご確認いただき、市川交響楽団の演奏をご鑑賞いただきますようお願い申し上げます。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

コロナ禍におけるコンサートの開催となりますので、団員一同、クラスター発生とならないよう、万全の体制にて演奏会を実施いたします。お客様におかれましても、下記の注意点を遵守くださいますよう、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

＊注意事項
- 37.5℃以上の発熱、体調不良の方の入場はできません。
- ホール・ロビーの建物内では、マスクを着用してください。
- ホール定員の半数程度の人数制限を設けて、入場受付を行っております。
- ホール入口では、アルコールスプレーによる手、指の消毒にご協力ください。
- 開演前、休憩時のトイレ使用はソーシャルディスタンスを順守してください
- 当演奏会は、演奏中体調不良となった場合は途中退場を可能といたします。
- 座席は、全席自由です。前後左右は間隔をあけてお座りください。
- その他ホール係員の誘導等のご案内に沿った行動をお願いします。

市川交響楽団事務局

# 本日のプログラム

## W.A.モーツアルト／歌劇「イドメネオ」よりバレエ音楽　（演奏時間　約30分）

第１曲　Chaconne　シャコンヌ
第２曲　Pas seul　パ・スール
第３曲　Passepied　パスピエ
第４曲　Gavotte　ガヴォット
第５曲　Passacaille　パッサカリア

♬ 休憩（20分）

## R.シューマン／交響曲第2番 ハ長調 作品61（大勝秀也編）　（演奏時間　約40分）

第１楽章　Sostenuto assai　十分に音を響かせて - Allegro ma non troppo　速く、しかしあまり速すぎないように
第２楽章　Scherzo.　スケルツォ　Allegro vivace　快活に速く
第３楽章　Adagio espressivo　落ち着いてゆっくり　表情豊かに
第４楽章　Allegro molto vivace　とても快活に速く

## プロフィール

©西岡教清

### 指揮／大勝秀也（おおかつ・しゅうや）

東京に生まれる。東京音楽大学卒業後、1988年ドイツに渡り、ボン市立歌劇場のアシスタントとして多くのオペラを指揮。91年ゲルゼンキルヒェン市立歌劇場第一指揮者、94年よりボン市立歌劇場第一指揮者。ドイツを中心にヨーロッパで活躍し、96年ボン歌劇場海外公演を行なった。

96年7月、マルメ歌劇場音楽監督に就任。99年には同歌劇場管弦楽団とCD「バーンスタイン：ウエストサイド物語／ストラヴィンスキー：火の鳥」をリリースし、スペイン演奏旅行を行なった。

オペラ以外には、ボン・ベートーヴェン・ハレ管、北西ドイツ・フィル、ザグレブ・フィル等と協演。95年、シュトウットガルト室内オーケストラとアメリカ、オーストラリアにて演奏旅行を行う。国内では、NHK交響楽団、新日本フィル、群馬交響楽団、京都市響、大阪フィル、九州交響楽団、二期会,日生劇場「日本人オペラシリーズ」、関西二期会等とも協演しており、正統ドイツの薫り豊かな演奏が高く評価されている。

2006年6月/07年5月ボリショイ劇場で「トスカ」を公演。11年12月に金沢、高岡、翌年1月には新国立劇場で、泉鏡花原作、池辺晋一郎作曲の「高野聖」を初演。12年10月大阪でフェラーリ作曲のオペラ「イル・カンピエッロ」を上演、13年12月いずみホールで演奏会形式による、モーツァルト「イドメネオ」を指揮。びわ湖ホールでは、14年2月に「ホフマン物語」、12月に「天国と地獄」、15年12月にはドヴォルザーク「ルサルカ」を上演、好評を博した。また、平成29年度全国共同プロジェクト〈トスカ〉公演を新潟、新川（富山県）、沖縄で行った。

現在、昭和音楽大学非常勤講師、ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団正指揮者。

# プログラムノート

## モーツアルト/歌劇「イドメネオ」よりバレエ音楽

『鍵盤に手を置くモーツァルト』ランゲ作

1780年、ザルツブルクにいたモーツァルトは、ミュンヘンのバイエルン選帝侯カール・テオドールから謝肉祭で上演するオペラの依頼を受けました。モーツァルトは11月にミュンヘンに赴き、歌手に稽古をつけながら作曲を進め、翌年1月29日にミュンヘンのレジデンツ劇場で初演されました。

24歳で書かれたこのオペラは、モーツァルトの最初の充実したオペラ・セリアとなり、熟達した管弦楽の音色、管弦楽伴奏付きのレチタティーヴォ、メロディラインを示しています。

当時フランス宮廷のオペラでは必ずバレエ場面を入れる習慣があったことから、モーツァルトはオペラ『イドメネオ』の作曲でさっそくこの方式を採り入れています。ダンス音楽の作曲はオペラ全曲の完成と、そして稽古の進展とに、平行して進められ、パリで受けた作曲家グルックからの影響がこの曲に現れていると言われています。

**第１曲「シャコンヌ」**はスペイン起源の舞曲（3つの部分で構成されている）

**第２曲「パ・スール」**はロンド風の舞曲で、文字通りひとりで踊るもの。

**第３曲「パスピエ」**はブルゴーニュ地方の速く軽快なダンスだったもので、17世紀にフランス宮廷で優雅な舞曲となったものです。

**第４曲「ガヴォット」**はアルプス地方の古い舞曲だったものが18世紀にフランス宮廷で洗練された２拍子系の舞曲になりました。

**第５曲「パッサカリア」**はシャコンヌと同様の流れにあるロンド風舞曲です。フランス宮廷でのオペラにおける挿入バレエの終曲は多くの場合パッサカリアと題されたといいます。

バレエにおける群舞曲とソロ曲のオーケストレーションの変化、長調と短調の移り変わり、旋律ごとの感情表現など後期の交響曲群につながる様々な要素を楽しめることができる作品です。

**＜初回練習の時の大勝マエストロのひとこと＞**

「君たちのモーツアルトは歳をとりすぎている、10代前半のダンサーが躍動するように演奏してください」

（時田雄）

## R.シューマン／交響曲第２番 ハ長調 作品61

妻クララがシューマンに与えた音楽的影響はとても大きなものです。結婚前の1839年にシューマンは「声楽曲は器楽曲より程度が低い。私は声楽曲を偉大な芸術とは認めがたい」と述べ、ほとんどピアノ曲ばかり作曲しました。がしかし翌年、クララとの結婚が近づくと、一転して続々と歌曲を手がけるようになります。二つの『リーダークライス』『ミルテの花』『女の愛と生涯』『詩人の恋』などの名作を含む120曲が書かれることになったのです。

また、これまで構想こそすれ書くことのなかった交響曲も、結婚の翌年には第１番とのちに第４番となるニ短調が、1846年には第２番が夫妻の住むライプチッヒで書かれ、メンデルスゾーンの指揮で初演されました。シューマンはクララとの結婚を機に、ピアノ曲の作曲家から歌曲と交響曲の作曲家へと転身したと私は考えます。

曲は４つの楽章からできています。**第1楽章**で「十分に音を響かせて」指定のある4/6拍子のイントロは、この交響曲の中でしばしば現れるモチーフがトランペットで印象的に始まります。続く3/4拍子は「速く、しかしあまり速すぎないように」というテンポ指定で進み、最後のクライマックスでは再び冒頭のトランペットのモチーフが現れ楽章を締めくくります。**第２楽章**は珍しい2/4拍子のスケルツォです。テンポをさらに上げたコーダではここでもトランペットのモチーフが現れます。冒頭のヴァイオリンの奏でる旋律に魅了される**第３楽章**の後、一転爆発するかのように始まる**第４楽章**は高貴な華やかさの旋律から讃歌を思わせるものまで溢れ出る主題のコラージュです。

『29歳のころのシューマン』クリーフーバー作

シューマンの管弦楽法はくすぶった響きを持つ独自性あるもので、華やかさに欠ける、バランスが取りづらいと、しばしば言われ、ゆえにこれまで多くの名指揮者たちがそのスコアに手を加えた演奏を残しています。今回は聞きやすさとシューマンに対する尊敬の念を併せ持った指揮者大勝氏の改訂版で演奏されます。

（かんばらひとし）

## 管弦楽：市川交響楽団（いちかわこうきょうがくだん）

2021年に創立70周年を迎えるアマチュアとしては全国有数の伝統を持つオーケストラ。メンバーは現在100余名で年齢構成は高校生から70代までの幅広い層にわたり、職業も会社員、教員、主婦など多彩。地元市川市での演奏会を中心に全国各地での文化行事やオーケストラ・フェスティバル等にもしばしば招かれ演奏を披露している。著名な音楽家との共演も数多く経験しているほか、特に地元ゆかりの音楽家との共演にも力を注ぎ、地域の音楽芸術の振興に多大な貢献　をしている。市川交響楽団は市川混声合唱団、市川交響吹奏楽団、行徳混声合唱団、市響ジュニアオーケストラの各団体とで構成する市川交響楽団協会の中核として“クラシック音楽をより多くの市民に楽しんでもらおう”をモットーに常に積極的な活動を展開している。

### 本日の出演者

【コンサートミストレス】
立田祥子

【ヴァイオリン】
石崎俊信
大橋一郎
大橋かおる
皆合愛子
佐分利幸江
滝澤葉子
中島雪香
秦　一宜
本郷尚子
溝田範子
武藤敦子
山本芳功
渡辺　惟

【ヴィオラ】
内田綾美
園田陽子
谷口善樹
奈良林弘子
星　乗昭

【チェロ】
倉澤倫子
福原耕二

【コントラバス】
上山優子
小林真弓

【フルート】
佐藤洋行
二木陽子

【オーボエ】
小梶哲也
二村直子

【クラリネット】
秋永直美
時田　雄
半藤嗣人

【ファゴット】
遠藤由紀子
金坂　哲
山内　静

【ホルン】
近藤利昭
山内正晴

【トランペット】
田崎真二
新井本昌宏

【トロンボーン】
石黒弘道
藤平一仁
吉川昌憲

【ティンパニー】
和田英恵
都筑　裕

【練習指揮】
河野真士

＊舞台上の指揮者、演奏者は熱中症の恐れがある為、マスクを外して演奏いたします。あらかじめご了承ください。

全国のアマチュアオーケストラを応援しています
公益社団法人 日本アマチュアオーケストラ連盟
事務局／〒441-8028 愛知県豊橋市立花町46番地 光陽ビル3F
TEL（0532）33-6885　FAX（0532）33-6875
http://www.jao.or.jp　https://www.facebook.com/JA01972/